

男是好

検査
11



検校庵 住職 鈴木 恵道

盛夏の折、皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃皆様にはご協力頂き、心より感謝申し上げます。

私、新年に入院し、手術を受けました。

病院で半月を過ごしましたが、今は三ヶ月に一度の通院となり後遺症もなく、おかげさまで檀務に御詠歌教室につとめております。

元氣は戻りましたが、今の私は何かと皆様にご迷惑かけることが多いと存じます。でもこの生かされた命を大事にし、皆様に御礼をし、ご先祖様に手を合わせる日々をつとめてまいります。

檀家様と墓地関係の皆様には護持会費並びに管理費をお願いする時にお伝えしましたが、今回は信徒の皆様もいらっしゃいますので、重ねてのお伝えになりました。

これから暑い日もふえていきますので、どうか皆様お身体をお大事に、日々お過ごしください。よう、お祈りいたします。

今後とも何とぞ宜しくお願い致します。

住職 鈴木恵道 合掌

【原文ママ※】

※検校庵だより一号から十号までは、副住職により少なからず校正をしておりましたが、今後は住職の強い希望により、原文ママにてお届け致します。

検校祭・眼神への感謝とお釈迦さまの生誕祭

検校庵のルーツである眼神・検校尊に感謝のご供養を捧げる法要と、四月八日に生誕されたお釈迦さまのお祝いの法要を併せて行っております。

伝承や伝記によれば、検校堂は

四百年以上前から存在しておりますが、検校尊の詳細な歴史は確認が出来ません。

しかしながら、検校堂というお堂の存在、眼神としての信仰無くしては今日の検校庵は存在し得なかったわけです。

そこで、お釈迦さまの生誕祭である「花まつり」に併せて検校尊への感謝を捧げる法要を行うため、四月十五日を検校尊の縁日と定めました。

お釈迦さまは、今からおよそ二千五百年前、ルンビニーの花園でお生まれになりました。

伝説では、生まれてすぐに七歩進

み、右手で天を、左手で地を指差し「天上天下唯我独尊」と宣言されたといわれています。

この言葉は「人は誰もが、かけがえない命を生きている」という、仏教のもつ差別のない人間という命を尊重する精神を現しているといえます。

検校祭に建てられる旗にはこのような文言が記載されております。

「慈眼視衆生 福聚海無量」

観音様が慈悲の眼で人々を見守り、その福德は海のように無限に集まる。という意味です。

観世音菩薩の誓願は衆生救済であり、大海のように無量無限の福德を持って衆生のために垂れ給う存在と云われております。

昭和九年より掲げられたこの旗には、当時の庵主様の遺徳が偲ばれます。

衆生救済たる検校庵であり続けたいと願ってやみません。

お寺の情報をスマホでご覧いただけます

このたび、検校庵では、公式ラインアカウントを開設いたしました。

お寺の行事案内やソナエルプロジェクトの活動紹介、副住職のコラム動画配信、御詠歌のお唱え動画などをお届けいたします。

また、仏事のご相談やお問い合わせもラインから受け付けております。

副住職と直接やり取りが可能ですので、どうぞお気軽にご登録ください。

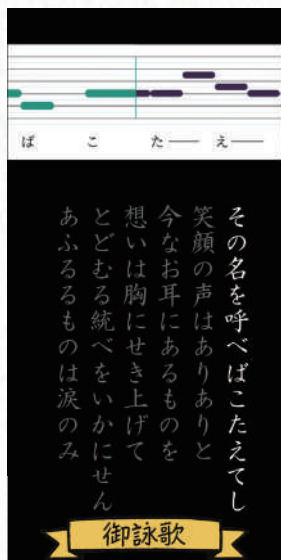
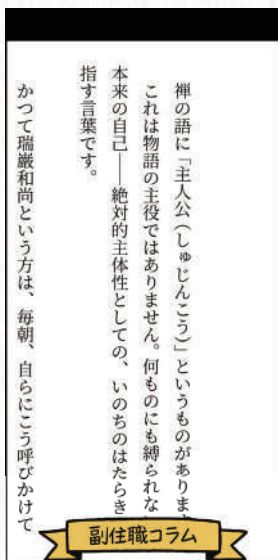
QRコードをお手持ちのスマホで読み取り、是非ご利用ください。



LINE 公式アカウント

友だち募集中

@035qvzag



お盆フードドライブ ご報告と今年のご案内

昨年、初めて「オボン・フードドライブ」を開催いたしました。

ご先祖さまに供えた心を、社会にも届けようという願いから始めたこの取り組みに、地域の皆さまから多くの協力いただきました。

お寄せいただいた食品は、本堂にて寄付者・ご先祖供養の読経を行ったうえで、社会福祉協議会を通じて支援を必要とする方々へ届けられました。

このフードドライブは、慈悲の循環を目指す「ソナエル project」の一環として行っております。

お盆は、ご先祖さまをお迎えし、命のつながりに感謝する時期です。

「食」の恵みを社会にも届けるという思いから、今年からは年中行事として毎年継続することといたしました。

ご自宅でお供えされた食品のお下がりはもちろん、新たに用意いただいた食品も大歓迎です。

お預かりした食品は本堂で供養を行い、福祉の現場へお届けします。

ご先祖さまへの供養の心と、今を生きる誰かへの思いやりが結ばれる場となればと願っております。

受付期間は七月八日(新盆施食会)より八月十六日(送り盆)まで。

受付対象は、常温保存が可能で賞味期限に余裕のある食品(缶詰・レトルト・乾物・飲料など)に限ります。

ご不明点などございましたらお寺までお問い合わせ下さい。

本年も皆さまの温かいご協力を心よりお願い申し上げます。



イマ・ココ・私——禅語「主人公」とAI時代の気づき

藤田清隆

禅語に「主人公（しゅじんこう）」というものがああります。

物語の主役という意味ではありません。何ものにも縛られない、本来の自己——絶対的主体性としての、いのちのはたらきを指す言葉です。

かつて瑞巖和尚という方は、毎朝、自らにこう呼びかけていたと伝えられます。

「主人公！」

そして自ら「ハイ」と応じる。

「しっかり目を覚ましているか」

「ハイ」

「これから先も、人に欺かれてはなりませんぞ」

「ハイ、ハイ」と。

これは『無門関』第十二則に記された、有名な逸話です。

私たちはすぐに他人と比べ、自らを固定化し、限界をつくつてしまいがちです。

だからこそ、「本来の自己に目覚めて生きよ」という声を、日々自らにかけ続けることが大切なのだと思います。

このたび、我が家に第二子となる男児、伊織（いおり）が生まれました。

生後まもない赤子を見つめる妻に、私はこう伝えました。

「赤ん坊ほど純粋な『主人公』はいない。いま・ここを全身で生き抜いている」と。

過ぎ去った過去や、まだ見ぬ未来に囚われることなく、ただ目の

前の光と空気を受けて、生きていく。その姿は、まさに修行者の理想と重なります。

ある夜、妻が夜泣きする息子の世話をしていた時のこと。

眠気と疲労の中で、彼女はふとつぶやきました。

「これが私の修行？……いま・ここ、なのかな」と。

まさに日常の実践の中で、禅の教えを自ら体感した瞬間でした。

この出来事をもとに、今回のコラムでは四コマ漫画『イマ・ココ・私』を制作しました。

一つの試みといえます。

近年、「仏教とAI」というテーマが注目されています。

私は、臨済宗大本山円覚寺で行われた勉強会の記事を拝読し、仏教学者・佐々木閑先生が「AIの進歩によって、仏教の説く『無我』がより明らかになる」と語られていたことに深く頷きました。

技術の進展が人間の役割や仕事を代替しつつある今、私たちは『何をするか』ではなく、『どう在るか』を問われ始めています。

禅は「今を生きよ」と説きますが、それは「今に留まれ」ということではなく、今を真に生き尽くすことで、『今』をも越えていく命の力に目覚めよ、ということでしょう。

生活の只中にある「目覚め」や「気づき」に、皆さまも何か感じ取っていただければ幸いです。

さあ、今日という一日の幕が上がりました。

それぞれの人生にただ一人。かけがえのない『主人公』を、共に生きてまいりましょう。

イマ・ココ・私



絵の生成にはAI（人工知能）を用いていますが、構成や感情の設計は私自身の手によるものです。AIはあくまで表現の筆。仏法のこころを、現代的な手段で伝え

